



地方自治の現場から!

秋田県企画振興部市町村課

伊藤 大智

ITO Daichi

平成25年 4月 総務省採用
大臣官房秘書課
平成26年 4月 自治財政局交付税課
平成27年 4月 現職

『地方交付税17兆円の意義を現場から』

私は現在、秋田県職員として、県内市町村の地方交付税に関する業務を担当しています。日本では、どんな市町村に住んでいても一定水準の行政サービスを受けることができます。ある市ではお金が足りないので消防業務はやっていません、なんてことはありませんね?

市町村によって地方税収が多いところもあれば少ないところもあるのに、なぜ同じような行政サービスを提供することができるのでしょうか。それは、財源保障と財源調整という機能をそなえた地方交付税制度が日本にはあるからです。その総額は17兆円程度にもなります。

秋田県内には、豪雪、半島、過疎、人口減少、少子高齢化といった行政サービスをする上での条件が厳しい市町村があります。秋田という現場にいて、市町村の逼迫した状況を肌で感じ、地方交付税という制度を通じて財政の面から支える仕事の意義を日々感じています。

『地方を想う熱い職場』

私が総務省を志望したのは、先に述べた地方行財政という業務内容だけでなく、地方を想う熱い職員がいる職場の雰囲気にも魅力を感じたからです。

少子高齢化や地域経済低迷といった様々な課題があれば、それがいち早くそして具体的に現れる現場は、地方自治体です。総務省は、そんな地方を想い、どうしたら地方にとって最善なのかを考え、日々議論を交わし、国の政策に反映させるために奮闘する職員たちであふれています。同僚と飲みに行けば、生まれ育った故郷の自慢話で盛り上がるのはもちろんのこと、それぞれの勤務経験のある地域の魅力を話し始めたら止まりません。

ぜひ、説明会に参加して、この熱い職員に会ってみてください!

そして、ぜひ、この地方を想う熱い職場で、一緒に働いてみませんか!

Some One Week

Monday

普通交付税の算定状況について、上司と一緒に知事にご説明。貴重な経験です!

Tuesday

普通交付税の額が決定したので、市町村へ通知を发出し、報道機関にも資料を提供。

Wednesday

普通交付税の業務がひと段落したので、特別交付税の業務の準備にとりかかる。



Thursday

市町村に訪問して実施する交付税検査の方法について班内で打ち合わせ。

Friday

週末なので定時後、同僚と飲みに行くことに!リフレッシュも大切です!



Private Time

同僚の地元を巡ったり、秋田でしか手に入らない地酒を楽しんだり、秋田ノーザンハピネッツの試合観戦をしたり...と満喫する魅力がたくさんです。

秋田竿灯まつりでは、県庁竿燈会の「差し手」として参加しました。休日の先輩方との練習を経て、まつり本番で竿燈妙技を披露!